



▲モルックに挑戦
色だけでなく手触りでも
区別できる立体パズル▶

遊んで食べて学んだ1日でした

第2回キッズフェスを開催しました
7月29日に総合福祉センターで開催したキッズフェスには、約150人の子どもたちが参加しました。ストラックアウトやモルックなどで元気に体を動かし、ボランティアが用意した食事をおいしくいただくことで、お腹も心も満たされる楽しい時間を過ごしました。今年は遊びだけでなく、目や耳が不自由な人の見え方や聞こえ方を体験できるプログラムや、聴導犬とのふれあいもあり、子どもだけでなく保護者にとっても学びとなるイベントになりました。多くのボランティアの皆さま、ご協力ありがとうございました。

☎ 健康福祉課総合福祉センター
079-430-6500

被災地の復興のために、引き続き尽力してまいります

熊本県宇城市に職員を派遣

7月28日に発生した令和8年熊本地震の被災地の一つ、宇城市に播磨町から家屋被害認定士2人を派遣。6日間で72件の家屋被害認定調査を行いました。

調査を行った地域は、被害が大きく、住めない状況の家屋が多くあり、調査に向かう道中も、至る所にひびや地面の隆起が見られ、通行止めとなつていてる所が複数ありました。給水車や仮設トイレなどの支援が様々な場所で行われていました。



▲各地から集まった応援の職員

直接、話をした住民は、大変な状況にもかかわらず、皆さん温かく接して声かけしてくださり、励みになりました。今後も、被災地が1日も早く復興できるよう、本町も引き続き尽力してまいります。

☎ 危機管理課

079-435-0991

☎ 健康福祉課地域福祉係
079-435-0311

はりま☆キッズタウン☆ニュース

第2回こども会議を開きました

問い合わせ先 こども課 ☎ 079-435-2362

8月に第2回こども会議を開きました。今回は、弁護士の前智史さんから、子どもの権利のうち「意見をあらわす権利」についてお話を聞きました。「子どもは、守られるだけの存在ではなく、社会をつくる一人の市民。子どもの声は、社会をよりよく変える力がある」と子どもたちを励ましてくれました。また、大人は、子どもの声に「耳をかたむける」必要があることを話してくれました。

次に播磨町で行っているイベントについて、協働推進課の職員から話をききました。「はりま春風フェス」と「大中遺跡まつり」について、子どもたちはどう思っているのか意見が欲しいとの課題をもらい、子どもたちはグループで話し合いました。

大人も子どもも参加できる「スーパースーパーハイイレース」をしたい、イベントで使えるお買物券が当たる抽選会をしたい、土器などがつくれるワークショップスペースが欲しい、休憩スペース

姉妹都市ライマ市を訪問しました!!

中学生訪問団が姉妹都市ライマ市を訪問しました

播磨町の姉妹都市であるアメリカ合衆国オハイオ州ライマ市へ、中学生の訪問団が訪問しました。

現地の家庭にホームステイをしながら、ライマ市役所を訪問。スミス市長をはじめ関係者の皆さんからあたたかい歓迎を受けました。姉妹都市交流の歩みや両市町のつながりについて学び、播磨町とライマ市の姉妹都市提携のきっかけとなった桂子・ハインさんとも対面して、お話を伺いました。日本とアメリカの架け橋として歩んできた桂子さんの人生や、交流への思いに触れる貴重な機会となりました。

☎ 協働推進課住民協働係
079-435-2364



▲ライマ市のマスコットキャラクター「ビーニー」と記念撮影

播磨町の漁礁でマダコが産卵しやすい環境をつくる

新島沖で産卵用タコつぼ350個を投入

マダコは秋に産卵シーズンを迎えます。播磨町沖で獲れるマダコの安定的な漁獲量を確保するため、播磨町漁業協同組合と播磨町は、8月7日に、新島の沖合で産卵用タコつぼを投入しました。

同漁協では、水揚げされたマダコを捌ぎ、竹串を刺して、天日干しにする「干しだこ作り」が、梅雨明け頃から8月まで行われています。真夏の強い日差しを浴びることで、旨味が「ギュッ」と凝縮された干しだこは、同漁協にて販売されているほか、ふるさと納税返礼品や町内小・中学校の給食用に使われています。

☎ 産業環境課産業経済係
079-435-0304



▲新島沖の漁礁でマダコが育つように

▼名物 干だこ



▲会議の様子

次回9月の第3回こども会議には、危機管理課の職員がこども会議に来る予定です。

